



第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会

コ－ヒ－ブレイクセミナー⑥

多職種連携で支える 間質性肺炎診療

- 当センターでの診療の実際 -



座長

小倉高志 先生

地方独立行政法人 神奈川県立病院機構
神奈川県立循環器呼吸器病センター 所長

演者

杉野圭史 先生

慈山会医学研究所附属坪井病院 副院長
兼呼吸器科 部長 兼間質性肺炎・肺線維症 センター長

日時

2022年 11月 12日 [sat] 14:50 - 15:30

会場

幕張メッセ 国際会議場3F E会場 302

〒261-8550 千葉県千葉市美浜区中瀬 2-1

*整理券の配布はありません

共催：第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 / 星医療酸器グループ

コ－ヒ－ブレイクセミナー ⑥

多職種連携で支える間質性肺炎診療

- 当センターでの診療の実際 -

慈山会医学研究所附属坪井病院 副院長 兼呼吸器科 部長 兼間質性肺炎・肺線維症 センター長
杉野 圭史 先生

間質性肺炎 (interstitial pneumonia; IP) は「間質」と呼ばれる肺胞壁で炎症や損傷がおこり、線維化病変を形成する疾患の総称である。IP の原因は多岐にわたり、職業・環境性 (粉塵曝露など) や薬剤性など原因の明らかなものや、膠原病・サルコイドーシスなどの全身性疾患に合併して発症するものなどがあげられる。一方で、原因が特定できないものの中で患者数が最多である特発性肺線維症は最も予後不良の疾患と考えられており、その疾患挙動の多様性から一般診療での正確な診断と治療介入は容易でない場合がある。

IP 診療では、急性期から慢性期 (終末期) までに臨機応変なアプローチが求められる。患者は診断、薬物治療、酸素療法や呼吸リハビリテーション、緩和医療、様々な合併症に対する治療などの目的により入院してくるが、当院では医師以外に看護師、リハビリ士、薬剤師、栄養管理士、臨床工学士、ソーシャルワーカーらが、患者ごとのニーズに合わせた最適な診療アプローチを常に連携しながら行っていることが大きな特徴の一つである。そのためには、各部署の中心メンバーらが患者の医療情報を共有し、定期的な多職種カンファレンスで方針を確認し合うことにより、それぞれの医療スタッフが最大限の力を発揮できるように心がけている。また、病棟薬剤師による処方支援入力の導入 (タスクシフト)、当院でマニュアル化されている急性増悪時や緩和医療提供時の治療指針、認定看護師および薬剤師外来などを積極的に活用することにより、多くの IP 患者に対して、限られた人数の医療スタッフにもかかわらず、一定の質を担保した IP 診療を可能にした。

本講演では、当院で取り組んでいる多職種連携で支える間質性肺炎診療の現状と課題について述べたい。

小型卓上肺機能検査装置

MiniBox+

肺活量測定、肺容量測定はガスレス・キャビンレスで測定可能
肺拡散能力まで測定できる正確で簡単操作な卓上装置

PulmOne
PFT Outside The Box

